

第1回 富山県職業能力開発審議会 議事要旨

日時 平成28年7月25日（月）午前10時～午前11時30分

場所 富山県農協会館903会議室

○出席委員

労働者代表：土肥委員、渡邊委員

事業者代表：上原委員、平田委員、丸田委員

学識経験者：石原委員、羽根委員、村瀬委員

○出席特別委員

野瀬特別委員、山下特別委員（代理出席）、柴特別委員、光永特別委員

3 議 事

(1) 職業能力開発ニーズ調査の結果概要について

(2) 「第10次富山県職業能力開発計画」骨子（案）について

●委員

説明されている中で目を引いたのが、コミュニケーション力。

海外ビジネスに必要な知識のスキル、コミュニケーション力と記載されているが、ここで今やっていることとされているコミュニケーション力は、おそらく語学が中心になると思う。

しかし企業が求めているコミュニケーション力というのは、日頃の会話というところが往々にしてあるのではないかと考えており、そういった点で、今後、職業能力開発として何か施策が打てるのかどうか検討いただく必要があるのではないかと。

もう1つは民間教育訓練機関の活用で、民間教育訓練機関や委託事業者というのは、県の計画の中でどのくらい考えているのか。民間を活用するにあたって、期待するところはどれだけあるのか。

●委員

私も、コミュニケーション力はどの分野でもやはり必要なことだと思う。海外だけでなくどんな分野でも対応していけるコミュニケーション力に、投資していくべき。

●委員

私は、全員参加の社会の実現について、女性と若者に注目している。

女性に関しては、やはり会社自身が、女性を受け入れる体制を整えることと職業能力を高めることの両方立ててやらないと、なかなか女性の継続的な勤務というのは難しいと感じている。

おそらく女性が求めるのは、企業側からいろいろなスキルアップの機会を積極的に与えてもらうこと。男性に対してよりも、女性に対し少し過剰にその機会を与えるという努力は必要だと感じている。このような人材育成の取り組みを、企業に強く働きかけてほしい。

●委員

高等学校におけるものづくり教育の充実という点で、高校生に対するものづくりマイスターの育成事業などあるが、企業の採用の観点からいうと、高校生の半分以上が大学に進学、しかも部活もやり

ながら、という状況の中で、高校生がどの程度時間を割けるのか、少し気になるところ。

また、女性の職業能力開発の支援という点で、ここ最近では、企業・社会において、女性の産休・育休、女性だけでなく男性の介護休暇など、それなりの仕組みが出来つつある。そういう中で、女性の管理職登用・役員登用という所も目指されるのかなど。女性の活躍について重点を置くなら、計画の中で、そういった表現をしてもよいのではないか。

障害者と外国人労働者の雇用とその環境の支援については、富山だけではなく、日本全体で考えていかなければならない。なかなか能力開発の視点だけではうまくいかないのではないか。

●事務局

まずコミュニケーション力については、海外ビジネス以外の分野でも、基本的な社会人マナーや一般常識といったコミュニケーション能力は必要だと考えている。各訓練においては行っているものもある。計画にどのように載せられるか考えていきたい。

次に、民間教育訓練機関については、現在も県・労働局で、民間教育訓練機関に訓練を委託、活用している。主に委託しているのは、OAや事務系、介護系の訓練。

ただ、設備や機材が必要なものづくり分野については、なかなか民間のほうで準備できる業者がないので、委託していくことは難しいというふうに考えているが、できるだけお願いできる所はお願いしていきたい。

●事務局

コミュニケーション能力については、先天的なものである面も一方であったりするので、基本的な社会常識マナーなどの訓練に盛り込むことができるのかという点も難しいところ。こんなことをやったらどうか、という話があれば教えていただきたい。

女性の活躍に関して言うと、今社会や企業において、女性の活躍に向けていろんなことに取り組んでいる。それらを追いかけていかなければいけない所もあると思うが、例えば、女性管理職の割合など目標を作り、取り組んでおり、これからもやっていく必要があると思う。

また、高校生の大学進学率が高いなか、なかなか高校生に話をしても、あまり時間も割けないし、効果が無いのではないかという話があるが、県内企業や県の取り組みを少しでも知っていただくことで、将来、就職などいろんなことを考えるときの参考、きっかけになればと考えている。

障害者や外国人に関しては、確かに富山県もしくは職業能力開発の分野だけでやっていく話ではなく、全国的・社会的にいろんな仕組みを作っていく必要があると思うので、その一部としてやっていきたいと考えている。

●委員

第10次職業能力開発計画の骨子については、全般を網羅されており良いと思う。

しかしながら業種・職種によって、強い所と弱い所とあるように思う。例えば、建築関係については、母体が弱く、なかなか企業に人材を育てる力がないという点が往々にして見られる。そういった母体の小さな業種・職種を応援する体制があればよい。

また、小さな事業所では、例えば1級技能士の資格を持っていても、それに見合うもの（手当）などが返ってこないため、資格取得の意欲が弱くなる。そういった点が見直されるような社会の仕組みづくりが必要だと思う。

●委員

時代の変化に応じ、多様な施策が打たれていると思う。

今後、この訓練をしたいと求めている人達にピンポイントで届くかどうかという視点で、告知していくことが重要になってくる。

計画については、全体的に網羅されていると思うが、逆に少しメリハリがあっても良い。例えば富山県の非常に良い取り組みを発信していくような広報も必要。県のブランディングにも繋がっていくと思う。

●委員

10次計画については、全般を網羅されており、良くできている。

後は、告知も含めて、どれだけたくさんの方が利用してくれるかということにかかっている。

もう1つ、計画では障害者の能力開発支援という記載があるが、障害者手帳を持たない発達障害気味の方への職業訓練というのは、どういうものがあるのか。情報があれば、教えていただきたい。

●事務局

中小企業や小規模企業への支援については、例えば企業へ出向いて研修を行う出前講座や、認定職業訓練校への支援を行っており、今後も取り組みを進めていく必要があると考えている。

資格については、技能検定など、できるだけ普及に努めてまいりたい。

広報・告知については、一般のハローワークや、女性向けのマザーズハローワークや若者向けのハローワークなど、様々な手段でPRを行っている。県でも、できるだけ情報を必要としている方々に届くように工夫していきたい。

●事務局

発達障害気味の方への就業支援について、県では、若者サポートステーションにおいて、ニートや引きこもりの方々を対象にした、職業相談を行っている。基本的な相談や職場体験も行っているので、活用していただきたい。

また、職業訓練についても各企業へ1～2人、企業実習のような形でお願いしている訓練がある。障害者手帳がなくても、医師の診断書があれば訓練を受けることができる。

●特別委員

小中学生によるものづくり体験、高等学校におけるものづくり教育の充実について記載されているが、当校では、ものづくりに関して魚津市・滑川市の小学校へ出前授業を実施している。授業の中でものづくり体験を行うことは、富山県にとって非常に重要なことだと思う。提案として、例えば技術者OBの方をものづくり授業の指導員として認定し、全県的にもものづくり教育を実施してはいかがか。

また、高等学校でのものづくりの出前授業も行っているが、ものづくり分野には、CADなど、男性でなくては出来ないという仕事ではなく、むしろ女性に向いているものもあると思うので、PRを充実させることが重要。県を挙げて、ものづくりへの女性の参画を促進していただきたい。

●特別委員

ものづくりに関わらず、例えば県ではキャリア教育に大変力を入れており、また、コミュニケーション能力、あるいはグローバル化といったことも、教育の大きな課題としてあり、今後もそれらについ

て取り組んでいくこととしている。教育委員会としても協力させていただきたい。

●特別委員

当協会としては、特に技能検定に関わらせていただいているが、この制度については国の計画でも評価され、県の骨子にも記載が盛り込まれているので、特に意見はない。

また、ものづくり人材育成支援事業の中で、高等学校へのマイスター派遣を行っているが、その時点ですでに進路を決めている人がいる。ものづくりを希望する人を増やすためには、インターンシップや雇用環境の拡大といった視点もあるのでは。

●特別委員

女性労働者に対する職業能力開発については、この4月から施行された女性活躍推進法での取り組みもすすめられている。この法律は、それぞれの企業において女性労働者がどのような状況にあるのかを分析した上で、一般事業主行動計画を作成し、それぞれの企業にとって早急に解決していかなければいけない問題に対応していただく仕組みである。また、次世代育成対策推進法では、子育て中の労働者への教育訓練を企業で取り組んでいくことになっている。

今後においては、非正規労働者についても重要になってくるだろう。

非正規労働者を正社員に転換していくことも、大事になってくると考えている。

●事務局

計画にメリハリをつけるという点では、富山県は、ものづくりを項目立てて前面に出していることが1つの特徴であり、今後も大事にしていきたい点。

また女性労働者の関係では、製造業の中にも、女性が活躍できる分野がたくさんあることを、これからもっと知っていただくように、県としても努力していかなければいけないと考えており、いろいろな施策を行っているところである。ご理解、ご支援いただきたい。

●議長

それぞれの大学や高専等で個別に行われているものづくり関係の出前授業については、地方自治体と協力して、もっと効率的にやれたら良いのではないかと。地方自治体には、高等教育機関をうまく使ってほしい。

●委員

民間教育訓練機関の選定にあたっては、公共的な立場で訓練を行うのであるから、受け入れるに堪える事業者をしっかりと選定いただきたい。

<了>